

APOE

遺伝子検査 の すすめ

認知症のリスクを知って
予防しましょう。

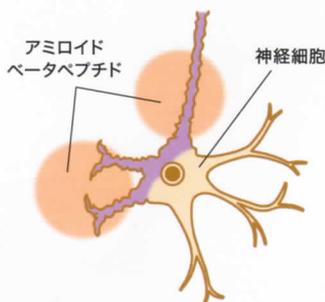
65歳以上の認知症患者数が、
2025年には約700万人(約5人に1人)に増加の予測

* 出典：厚生労働省 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

APOE遺伝子と アルツハイマー型認知症 の関係



- アルツハイマー型認知症(アルツハイマー病)は、アミロイドベータペプチドという老廃物が脳に蓄積し、神経細胞に障害を与えることが原因で発症することがわかっています。



- アミロイドベータペプチドの蓄積や凝集に関わる物質のひとつが、アポリポタンパク質Eです。それを司るAPOE遺伝子には、主にε(イプシロン)2、ε3、ε4の3種類あり、2つ一組で遺伝子型を構成しています。

- ε4の有無とアルツハイマー病発症との関係を調べると、ε4を全く持たない遺伝子型に対して、ε4を1つないし2つ持っている遺伝子型のアルツハイマー病発症リスクは、右表の通り約3倍～12倍高くなると言われています。

■APOE ε4によるアルツハイマー病発症への影響*

遺伝子型	リスク(倍)
ε2 / ε3	0.6
ε3 / ε3	1.0
ε2 / ε4、ε3 / ε4	3.2
ε4 / ε4	11.6

* 出典：Hsiung, G.Y., Sadovnick, A.D.,
Alzheimers Dement. 2007より改変



APOE 遺伝子検査とは？

- あなたの持っているAPOE 遺伝子型を調べ、アルツハイマー病発症リスクを知り予防に繋げるのが、APOE 遺伝子検査です。
- 検査を受けるには、医療機関で5 mLの採血をしてください。
- 検査結果は医療機関から受け取ります。(2～3週間後)



APOE 遺伝子検査はアルツハイマー病の発症のリスクを調べるものであり、将来の発症の有無を判定するものではありません。

またε4 遺伝子型があったとしても、必ずしもアルツハイマー病を発症するわけではありません。

アルツハイマー病の発症は遺伝的要因以外に加齢や生活習慣なども関係しています。また、糖尿病や高血圧がアルツハイマー病のリスク因子と言われています。

生活習慣の改善など適切な予防を行えば、アルツハイマー病の発症を防ぐことや遅らせることができると最近の研究でわかっています。

アルツハイマー病発症と関係の深いAPOE 遺伝子検査を受け、リスクを知り予防に繋がしましょう。

